

排水対策と麦踏みを実施しましょう

平成 29 年 12 月
安足農業振興事務所

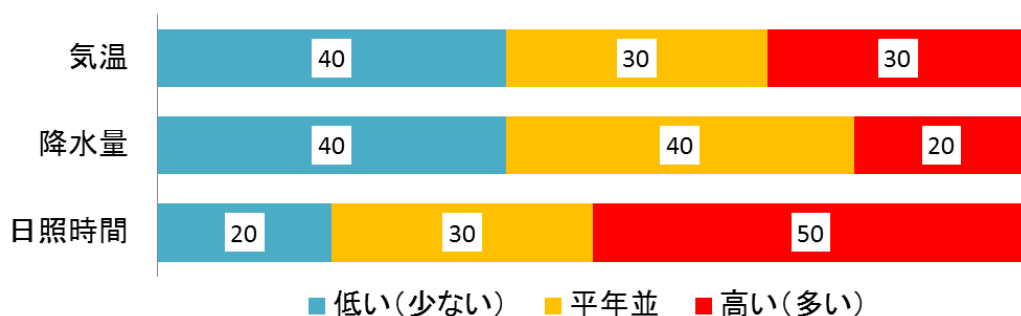
●は種適期以降の気象

気温→低、降水→少、日照→やや多

11月10日～12月20日の佐野市の積算気温は272.9℃で、平年より30.9℃低く推移しました。降水量は21.5mmで、平年比35%と少なく、日照時間は270.8時間で平年比113%とやや多かったです。

関東甲信地方の今後1か月の気象予報は気温が平年より低い確率が40%、降水量が平年並または少ない確率ともに40%、日照時間が多い確率50%と これまでと同様の気象が続く見込みです。

参考：向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）
（12月21日気象庁発表、関東甲信地方）



●麦類の生育概況

全体的にやや遅れ、3葉目が展開したら麦踏みを

10月の台風・連続降雨による水稲収穫作業の遅れに伴い、麦類のは種作業に遅れが生じました。は種の遅れに加え、低温・少雨が continuing しているため麦類の生育は昨年よりやや遅れています。

一方、適期内には種されたほ場では 既に3葉目が展開しているところも見られ、麦踏みに取りかかれる状態です。

●今後の栽培管理

生育が遅れているほ場こそ排水対策を！

・排水対策

土壌が湿潤状態だと地温が低くなり、生育の遅れを招きます。現在、生育が遅れているほ場こそ排水対策が必要です。

ほ場内やほ場の周りに明きよ（排水溝）を設置して、ほ場の水はけを向上させましょう。排水性が良いほ場は土壌が乾きやすく、麦踏みも実施しやすくなります。

・麦踏み

3枚目の葉が出てきたら麦踏みができます。は種が早かったほ場から葉の枚数を確認してみましょう。

麦踏みを行うと、分けつの促進・耐寒性の向上などの効果が見込めます。3葉目が出てきてから茎立ち期直前にかけて、3～4回は実施しましょう。10～14日間隔を空ければ次の麦踏みを行えます。

注意① 生育が遅れている場合は無理をして踏んではいけません。3葉目が出てくるのを待ちます。

注意② 土壌が湿っているときの麦踏みは土が締まってしまい逆効果です。必ず土が乾いた状態で実施してください。

●雪害に注意

近年、地球温暖化の影響により、一度の雨や雪でまとまった量が降る傾向が強まっています。排水が不十分なほ場での湿害のほか、農業用施設への雪害にも注意が必要です。

県内では、降雪による水稻育苗ハウスへの被害も発生しています。倒壊や変形を防ぐため、雪が降る前にハウスの点検・補強をしておきましょう。